

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 2 月 24 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200684		
法人名	株式会社 エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム千田・みどりの家		
所在地	広島市中区南千田東町4番32号 (電話) 082-236-7270		
自己評価作成日	平成29 年 1月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200684-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年2月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

理念である「ゆっくり いっしょに たのしく」を念頭に置き、楽しく笑顔で過ごして頂けるよう、好きな事、やりたい事が出来る様、日々関わっています。また、安心して過ごせるよう、馴染みの人、環境、落ち着いた雰囲気の中で過ごせるよう、笑顔で接しています。家事は入居者様とスタッフが協力して行なっていて、それぞれ役割を持って生活されています。 天気が良い日は近隣の公園で散歩します。地域の方々、すれ違う方と挨拶を交わしながら、散歩に出かけています。気分転換や運動が出来るので、皆様とても喜ばれています。散歩にお連れできなかった方は、4階屋上に上がり、外気浴を行っています。提携医の往診が月～土曜日にあり、急な体調の変化等への対応が可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

御幸橋に程近く、街なかのメイン道路沿いに立地し、一階を居宅介護支援事業所、二階・三階をグループホームとして開設五年目を迎え、地域と共に歩み、街ぐるみで利用者の穏やかな生活を護り、家庭的な環境の中で、ゆっくりとその人らしく笑顔で暮らし続けられるような支援に取り組んでいる。玄関には四季折々のイラストが描かれたウェルカムボードを置き、ブログでは利用者の日々の様子を伝える工夫に取り組んでいる。特に、運営推進会議の参加メンバーや内容の充実を図り、地域住民と一緒に防災意識を高める工夫に努め、一階のスペースを地域包括支援センターとの連携で、健康体操教室ほか地域交流の場として提供するなど、この一年間の取り組みに成果が伺われた。更なるケアの質の向上や、世代を超えた交流・ボランティアの受け入れなど、地域団体とのより深い関わりを目指し、職員・関係者他のチームワークを大切に、温かみのある支援を心がけ、日々、尽力している事業所である。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念の「ゆっくり、いっしょに、たのしく」は、フロアの目につく場所に掲示しており、いつでも職員が振り返れるようになっている。また、個人目標として設定している職員も多い。	法人理念を基に、事業所の介護基本方針として「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を掲げ、職員間で共有している。午前中の時間帯を活用して話し合い、利用者の意見を取り入れた支援につなげる年間目標を定め、振り返りも組み込みながら、日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のスーパーへ利用者と一緒買い物に出かけたり、とんどに参加している。また、地域の清掃活動にも可能な範囲で参加している。	町内清掃など、地域行事に積極的に参加し、こども110番の家にも指定され、世代を超えた関わりを持ち、近隣の幼稚園の運動会や食事会に招待されるなど、園児たちとも親密な交流を継続している。園長が運営推進会議に出席し、消防署員立ち合いの防災避難訓練にも参加するなど、地域に根差した取り組みを実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議では、利用者の日々の様子や職員の支援内容を報告し、地域の方々へ向け、認知症について発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在の状況報告、取り組みを報告し、それについて意見を頂いている。夏場に行なった会議では、水分補給の重要性について、多くの意見を頂き、実際に生活の中に取り入れて、サービスを実施した。	隔月開催の当会議には、各方面からの参加を得て、活発に意見交換がなされている。この一年間、ニーズに合わせたテーマを決め、毎回、参加メンバーの幅を広げ、地域貢献も視野に入れ、可能性を深めてきた。運営推進会議を有意義に活用し、サービスの質の向上につなげている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	分からないことがあれば、連絡して聞くようにしている。また運営推進会議に事業者指導係の担当職員の方を招き、そこでも意見交換し、協力関係を築いている。	行政関係者の運営推進会議への参加をはじめ、地域包括支援センター職員の指導のもと、一階のスペースで健康体操教室などを催し、地域住民との交流を深めている。様々なイベントや「サロンみどりの家」の開催に向け、地域団体との関わりや交流の輪を広げ、更なる協力関係の構築を目指している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、年に1回、勉強会を開催し、理解に努めている。フロアの扉も施錠しない支援を行い、その上で安全なケアの方法を職員間で話し合い、実施している。	定期的な研修はもとより、ケア向上委員会を設けて、職員の意識を高めている。個々のケースについても、勉強会などで見解を広めながら、普段から、スタッフ間で身体拘束をしないケアの啓発を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止について、年に1回、勉強会を開催し、職員が学ぶ機会を設けている。また、入浴時には身体状況を確認し、職員間で共有し、変化に早く気付く体制作りをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について、年に1回、勉強会を開催し、職員が学ぶ機会を設けている。利用者の周辺状況が変わった際に、家族へ向けて、成年後見制度やかけはしの情報を提供し、選択肢の一つにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や重要事項説明書を読み合わせながら、説明を行っている。不安がないよう、疑問点はその場で返答するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見ボックスを設置し、いつでも意見をもらえるようにしている。また、利用者、家族と密に連絡を取り合い、職員に意見をもらえる関係を築くよう努めている。頂いた意見はミーティングの場で共有し、運営に反映している。	主に、面会時や催し時に意見・要望を伺い、遠方の家族とは、電話や便りでコミュニケーションを図っている。花見を兼ねた家族会など、年二回の集いを設け、本人本位に楽しく過ごせるよう話し合い、サービスに活かしている。「みどり通信」やブログに、利用者の笑顔や近況報告を載せ、細やかな気配りと共に、家族等へ届けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に1回以上は代表者、管理者との面談の場を設け、職員からの意見を聞いている。またフロアミーティングや全体ミーティングの場でも、意見や提案を聞いている。	毎月のフロアミーティングや全体ミーティングで、職員から意見や発案を聞き、集約、検討し、サービスに反映させている。年間目標の定着度や意識統一についても、半年毎にアンケートを取り、より良い支援に向けて取り組んでいる。その結果、職員の自発性や向上心アップにつながったり、利用者の食事の自立へ向けた支援がなされたケースがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回、自己評価シートを記入し、代表者が職員一人ひとりの状況を把握している。それらを基に、面談を行い、意見を聞き、向上心を持って働けるよう、環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に1回、テーマを設け、職員間で勉強会を開催している。また、外部研修の案内は職員にアナウンスし、希望者は受講できるよう勤務の調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループ内でお互いに事業所の見学を行い、意見交換している。また、近隣の他施設から利用者の入居問い合わせがあった際に併せ、施設見学をさせてもらい、ネットワーク作りをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	何でも情報シートを活用し、普段の何気ない会話の中からも、不安や要望を汲み取るよう努めている。家族からも情報収集し、職員間で共有し、本人の安心の確保の材料となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約時に、家族からも要望や不安を聴いている。また、事業所での本人の様子を電話で報告し、家族から話を聞いて、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事業所に入居までに、何度か本人や家族、関係者と面談し、状況把握をしている。その中で、必要があれば、他サービスの情報提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	施設理念を基に、利用者が常に主役であることを忘れず支援している。家事をする時には共に行き、生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた際、また電話等で、利用者の生活状況を報告している。家族からも話を聞き、どのような支援が良いのか共に考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	筋力低下防止に努め、外泊や外出で行きたい所へ出かけられるよう支援し、また行事がある時には家族に連絡し、一緒に参加してもらっている。お墓や住んでいた場所へ行けるよう、要望を聴き、企画している。	元利用者の家族がボランティアで来訪したり、二胡の演奏や演芸などの定期的な来訪のほか、懐かしい人たちとの交流や馴染みの人との関係性を大切に、個々の思いに寄り添ったひと時が楽しめるよう、雰囲気づくりにも配慮している。今後は、交流の輪を広げ、より多様なボランティアの受け入れも視野に入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の人間関係を把握し、居心地の良い時間が過ごせるよう、職員が見守っている。馴染みの関係が構築できるよう、レクリエーションや創作活動等を提供し、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去されてからも、家族から連絡があれば、必要に応じて相談に乗ったり、訪問することがある。退去された家族の方が、定期的にボランティアとして、訪問して下さっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、一人ひとりの意向や思いを把握するよう努め、ミーティングで話し合い、ケアプランに繋げている。家族とも話せる機会を作り、意向や思いを聴き出している。	日常的に人生の先輩として敬い、さりげない会話やふれあいの中で、個々の思いや意向を汲み取っている。発語しにくい方には、ノンバーバル(表情、様子等)な方法や、家族からの聞き取りにより、意向を確かめながら、「何でも情報シート」や「気付きシート」に記し、アセスメントにつなげ、縮景園へ梅を観に行くなどの個別ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前は、本人や家族の面談や、利用していた事業所や医療機関からの情報収集により、生活歴や暮らし方等を把握するよう努めている。本人との関わりの中でも、常に情報収集を行っており、職員間でそれを共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活日誌や申し送り日誌で、日々の心身の状態等を把握できるよう努めている。状態の変化が生じた時は、正確な状態把握ができるよう、カンファレンスを開催し、状態に合わせた支援の統一ができるよう、情報や支援の方針を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	フロアミーティングでモニタリングを行い、利用者の現状を把握し、それと共に本人の思いや家族の意向、提携医の意見を参考に、介護計画の作成にあたっている。	日々の生活の中で知り得た情報を基に、フロアミーティング等で話し合い、本人・家族・医療関係者の意見を加味しながら、介護計画を立案している。毎月のミーティング時でのモニタリングで見直しを行い、個々のニーズに合わせたケアプランとなるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	フロアミーティングの際、一人ひとりのモニタリングを行い、職員間で情報共有している。朝夕の申し送りや伝達ノートを作成し、日々の様子や状態の把握に努めている。それらを基に、状態の変化がある際は関係者に伝え、介護計画の変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の思いや家族の意向、状態を常に把握し、他ユニットや、本社、他事業所や他施設の協力を仰ぎ、必要に応じて、公の機関にも連絡や相談を行い、新たなニーズに対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事への参加や地域の商店を利用することで、地域の方々との交流が図れるように配慮している。また、地域のボランティアを活用し、楽しい手作業や体操への参加、様々な芸事の披露により、入居者の楽しみや豊かな暮らしを作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者や家族に、入居前に提携医の選択をしてもらっている。入居後も必要に応じ提携医と連携し、適切な専門医を紹介している。月～土曜日に提携医の往診、看護師による24時間対応、医療の支援が受けられるようにしている。また、提携医とも常に連絡が取れる体制ができています。	協力医療機関や24時間対応の看護師との連携のもと、適切な医療の支援を提供している。内科、歯科など定期的な訪問診療がある他、通院が必要な場合には、基本的には、家族の同行となっているが、その情報を職員と共有している。服薬管理や感染症対策にも留意して、利用者の健康維持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師と常に連絡が取れる体制があり、入居者について気になることや変化があれば、看護師に伝え、必要があれば指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へのお見舞いを定期的に行い、利用者の現状を把握し、職員間で共有している。退院時もカンファレンスに参加したり、情報提供書を貰い、事業所の提携医とも相談し、安心して戻ってきてもらえる環境作り、体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族、担当医、管理者と終末期の在り方について話し合いを行い、要望を聞いたり、今後のケアについて伝えている。また、その要望を基に、スタッフ間でチームケアを行えるよう、ケアの統一を行い、状態の変化に応じて担当者会議を行っている。	ターミナルケアに関する指針があり、その都度、家族や関係者と話し合い、一人ひとりのニーズに合わせ、意向に沿った支援を図っている。最期まで、その人らしく過ごせるように、チームで取り組み、出来る限り思いに寄り添ったケアの実践に配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急連絡網を作成し、緊急の際には連絡を徹底している。また、スタッフは定期的に救命救急の研修に参加したり、看護師の指導による、慌てないための実践力を身に着ける勉強会を開催している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、消防署員立会いの下、避難訓練、消防訓練を行っている。また防火管理者による定期的な消防点検、非常用の水も用意している。地域マップ等も周知している。運営推進会議の際、避難訓練を実施し、実際に見て頂き、意見を頂戴した。	運営推進会議後に、地域の人たちも交えた避難訓練を実施し、参加者から貴重な意見を得ながら、今後の取り組みに活かしている。特に、地域との相互応援協力を図り、あらゆる事態に備えて、防災備品の点検や備蓄など、災害時の協力体制に加え、防災システムの整備を整えるよう目指している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報については、鍵付きの書棚に保管し、情報廃棄時はシュレッダーを使用している。職員は利用者に対し、尊厳に配慮した話し方や、排せつの介助時には、羞恥心に配慮した声掛けを行っている。	日々の生活の中で、一人ひとりの尊厳を護り、ライフスタイルやプライバシーを大切にしたいケアを心がけている。人格を損ねないような言葉遣いや、トイレ誘導時には小声で声掛けするなど、シチュエーションをふまえながら、配慮してケアをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者の個別の生活歴やケアプラン等を基に、本人の思いを汲み取り、働きかけを普段から行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床から着床まで、何かする時は本人の体調や気分を伺いながら、無理のない活動ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自力での整容が難しい方には、職員が介助している。持っている手作りのアクセサリーを選んで頂けるよう準備し、オシャレを楽しめるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者一人ひとりに合った食事形態で提供し、また量も調整している。また野菜の下ごしらえやコップ洗い等、できることは作業して頂き、生活の中での役割を見つけて頂けるよう支援している。	配達された食材で、利用者も調理の下準備などを手伝い、一人ひとりに合わせた役割分担を楽しみながら行っている。栄養バランスの取れたメニューで、職員による手作りの食事提供をしている。職員と共に食卓を囲み、和やかな食事の時間を大切にしている。敬老会やお正月、誕生日などには、特別食でお祝いをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個別に、食事の盛り付ける量を調整している。誤嚥の危険性がある方には、とろみをつけたり、固形のゼリーに変え、水分の補給をして頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、入居者様全員が必ず口腔ケアを実施している。自力洗浄では不十分な方には、職員が義歯のブラッシングを行っている。一週間に一度、ポリデントで義歯の消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表に記入し、時間を把握し、定期的な声を掛け、トイレにて排泄できるようにしている。	個々のパターンやタイミングを見計らって、トイレでの排泄を促している。夏場の水分補給や腹部マッサージを取り入れた排便改善の工夫など、各々の状況に合わせた支援に取り組んでいる。筋力低下を防ぐためにも、廊下を歩く習慣や、布パンツへの移行など、自立へ向けたケアを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘気味の方には、牛乳やオリゴ糖の入った飲み物を提供したり、散歩や室内での体操を通し、身体をしっかりと動かして頂いている。便秘気味の方には、腹部のマッサージを実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	無理強いすることなく、入居者様の希望に沿って、時間を気にせず、一人ひとりのペースで入浴を行っている。	基本は、午後からの設定となっているが、心身状況に合わせ、各々の意向に沿った入浴支援をしている。ゆっくりとリラックスできるように、時間やタイミングを観ながら、職員とのコミュニケーションの場としても、落ち着いて寛げるように配慮している。季節を感じる柚子湯や菖蒲湯なども楽しんでいる。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	日中の散歩や外気浴、体操を日 々、取り入れ、安眠できるよう支 援している。ご本人様の意向を尊 重し、また、必要に応じて午睡 して頂き、無理のないよう過ご して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている。	定期的に、薬剤師による薬につ いての勉強会を開催している。個 々の薬の情報書類をファイルし、 服薬状況や効用、副作用を把握 している。医師、看護師、薬剤 師と連携し、報告、相談してい る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をし ている。	一人ひとりの生活歴を把握し、出 来ること、好きなことを取り入れ 、日々の生活の中で、楽しんで頂 けるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるよう に支援している。	日常的に散歩やスーパーでの買 い物、外食等に出掛けている。初 詣、花見、菊花展にも、毎年行 っている。本人の希望により、 足湯に行ったり、お墓参りの外 出計画を立て、実現している。	普段から、近くの公園への散歩 や買い物など、外気浴や気分転 換を心がけ、利用者の体調を考 慮しながら取り組んでいる。広島 城へ菊花展を観に行ったり、紅葉 を愛でるドライブ、湯来温泉など への個別外出の機会を設け、な るべく各々の意向に沿った支援 をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている。	所持金の事業所での管理はしてい ないが、希望の物を購入できる ように、立替支払いを行っている。 所持することにより、安心感 がある方については、ご家族様 と相談し、自己で管理をしてもら っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙は年賀状、暑中お見舞いをはじめ、なるべく本人直筆の物を出すようにしている。電話は職員が取り次ぎ、家族と本人が話が出来るよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に季節感を感じよう配慮し、清潔な居場所作りを心掛けている。感染症予防等に配慮し、安心して生活できるように努めている。	各階共に、ゆっくり寛げるよう、季節の花や手作り作品を飾り、家庭的な雰囲気のリビングである。見晴らしの良い四階屋上には菜園があり、利用者と一緒に花や野菜を育て、収穫し、旬を味わい楽しんでいる。天候の良い日には日光浴を、夏の夜には宇品の花火大会も楽しめる、憩いのスペースとして活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お茶や好きなゲーム、塗り絵等を提供し、退屈されないよう努めている。居室でゆっくり過ごしたり、一人で集中して作業できるよう、空調や照明等に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使用していたものを持参して頂き、居心地よく落ち着いて生活できるよう、環境を整えている。家族の写真や利用者の作品を飾り、それぞれの方の特色が出るよう工夫している。	思い出の写真や使い慣れた調度品に囲まれ、その人らしく落ち着いて暮らせるよう配慮している。自ら手掛けた折り紙作品や趣味に合わせた飾り付けなど、個性を活かした生活スペースづくりを心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の手作りの壁画を、玄関に飾る等している。屋上に花や野菜を植え、成長や収穫を、喜びや楽しみづくりに向け、支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム千田・みどりの家

作成日 平成29年4月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	毎日の散歩以外にも外出、外食の機会がある。	お一人あたり月に一回以上は好きな場所、行きたい場所にお連れする。	・ 本人様、ご家族様からニーズ喚起。それぞれ担当スタッフが計画、実行する。ご家族も一緒に参加できるものも計画する。	6か月
2	2	地域の方がホームに来られる機会が少ない。	地域の方が誰でも参加できる行事を開催する。	・ 月に一度、地域向けのサロンを開催。 ・ 毎月行っている行事をチラシやホームのウェルカムボードを使いアナウンス。地域の方に来てもらう。 ・ 避難訓練をする際には運営推進会議構成員を中心に地域の方に声をかけホームに来て参加してもらう。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。